

T-2番 要約

1 被害者

匿名・埼玉県在住。平成6年8月生 接種時高校1年生（16歳）、現在19歳。

2 接種前

健康（中学時代、欠席日数も含めた模範生徒として表彰された）

琴部所属、委員会活動では長を務めるなど、積極的に充実した学生生活を過ごしていた。ピアノでは埼玉県で金賞を受賞したことがある。

3 接種

サーバリックス2回（平成23年2月5日、同3月5日）

4 経過概要

平成23年1月 市から接種案内が届く。学校でも案内あり。高1のうちに受ければ公費助成が受けられるので接種を決める

2月5日、3月5日 ワクチン接種

3月6日 入浴後失神、発熱

5月8日 学校の階段で琴を運んでいたところ、意識消失発作。右半身痺れあり

5月10日 学校で意識消失発作、耳鳴り。接種後初めて生理（どす黒い色）

～その後6月頃まで、意識消失、突発性難聴、発汗、頭痛などの症状あり

平成24年11月5日 インフルエンザ予防接種

11月6日 耳鳴り、発熱、両手湿疹などの症状発現。1か月以上嘔吐・下痢が続く

11月19日 学校で意識消失発作 そのまま総合病院に1日入院

11月28日 生理 赤黒くどろっとしており、非常に量が多い

12月2日 生理の出血が終わったと思ったら、真っ黒い出血、直前に激痛

12月3日 頻脈出現

その後も、不整脈、失神、めまい、嘔吐、気持ち悪さ、痙攣発作の症状が継続

平成25年5月11日 右足を巻き込むように歩行するようになる

6月18日 意識消失発作、全身脱力症状開始

6月19日 右手・右足の痺れ

6月21日 痙攣、歩行困難、右肩下がりなどの症状が現れる

その後も、意識がもうろうとしたり、失神、不整脈・頻脈、鼻血、生理不順、頭痛、特に後頭部の痛み、めまい、耳鳴り、右手右足の痙攣など

10月～現在 大学病院でパルクス点滴とリハビリ開始

平成26年3月 地方の病院でステロイドパルス治療開始

5 現在の状況

自宅で大学受験勉強中。1時間程度、杖を使った歩行可能。それ以外は車イスでの移動。

6 申請 医薬品副作用被害救済制度：平成25年8月申請、現在審査中

T-2番 (埼玉県)

1 はじめに

私は、平成6年8月27日生の平成26年5月現在19歳の女子です。子宮頸がん予防ワクチンの接種を受けたときは、高校1年生でした。

中学生のとき、学校をほとんど欠席せず、生活態度を表彰されました。埼玉県でピアノ演奏で金賞を受賞したこともあります。

高校に進学した後も、心身ともに健康で、部活動(琴部)や委員会活動で長を務めるなど学校生活全般に積極的に参加し、将来は法律家になることを夢見て、充実した学校生活を送っていました。

2 子宮頸がん予防ワクチン接種を受けることにした理由

平成23年1月、市の保健センターから「ワクチン接種のお知らせ」という封書が自宅に郵送されました。それには、子宮頸がんによって多くの女性が亡くなっている、2、30歳代の女性の子宮頸がんの発症率が高いこと、ヒトパピローマウィルス(HPV)感染によって子宮頸がんを発症すること、ウィルスによる発症の60%を「16型」「18型」というもので占めていること、子宮頸がん予防ワクチンの接種でこれらのウィルス感染を防ぐことができること、ワクチンは3回接種するもので、3回接種しないと十分な予防効果が得られないことが書かれていました。

また、平成23年2月1日から子宮頸がん予防ワクチンの接種費用の全額助成が始まり、私のように高校1年生の女子が、平成23年3月31日までに公費助成で接種を受けた場合は、残りの接種が4月1日以降になっても助成対象になるということでした。高校でも先生からそのような助成があつて、スケジュールが決まっているので忘れないようにしようとの説明があり、教室には案内のチラシが掲示されました。電車の中でも公費助成が始まったという広告を目にしました。

そのため、学校でも友達との間でワクチン接種を受けるかどうか話題になりました。皆、子宮頸がんを予防でき、無料で受けられるのなら、受けると言っていました。私も、子宮頸がんが予防接種で唯一防げるがんだと理解しましたし、公費助成もあるので、接種を受けることにしました。

3 予防接種ワクチンの接種と接種後の症状

平成23年2月5日、近隣のレディースクリニックで1回目の接種を受けました。ワクチンはサーバリックスでした。接種を受ける際、注意事項を書いた用紙を渡され読んで下さいと言われ、口頭で、筋肉注射だから痛いと思うとか、倒れる子がいるから念のために接種後30分は安静にするようにとか、お風呂には入っていいとか、という説明がありました。

接種後、注射された左上腕に筋肉痛のような痛みがあり、腕を自由に上げられずボールを投げることはできませんでした。もっとも、これは2、3日程度で回復しました。また、それまで定期的にあった生理がなくなっていました。接種を受けたクリニックにそのことを伝えても、関係ないでしょうと言われました。

平成23年3月5日、2回目の接種を受けました。右肩の下の注射部位が少し赤く腫れ

て、右上腕に重い感じがありましたが、その日は特に問題はありませんでした。

ところが、翌6日18時ころ、お風呂から上がった後、脱衣所で一時意識を失ってしまいました。その後、熱を測ったら37.5度の発熱がありました。22時には39.2度まで熱が上がりました。そのため、病院の夜間診療を受診しインフルエンザでないか調べてもらいましたが、結果は陰性でした。解熱剤を処方してもらい、帰宅しました。

7日朝には熱は36.7度まで下がりました。ワクチン接種を受けたクリニックに電話をしたところ、副作用だろう、カルテに記載し、製薬会社に報告するとのことでした。

その後3月4月も生理がない状態が続きました。

2回目の接種後の意識消失などがあったため、祖父が厚労省に以前いた知り合いの方に相談してくれました。その方からは、子宮頸がん予防ワクチンの副作用の可能性があるとこの話を聞いたとのことでした。そのため、3回目の接種は受けないことになりました。

4 接種後2ヶ月を経過した後の症状

平成23年4月から高校2年生になり、琴部の部長として発表会に向けて取り組んでいました。

5月8日17時ころ、高校の琴部の活動が終了した後に琴を運搬していた時、目の前が真っ白になり意識を失い、琴を抱えたまま階段を後ろに倒れ、頭と右半身を打撲し、右手首下を骨折してしまいました。また、目を覚まして左耳に耳鳴りと右手右足にしびれを感じました。19時に救急対応をしているクリニックに救急搬送され、検査と点滴を受けました。

5月10日、学校で5時限終了時に起立したとき、失神して倒れてしまいました。失神した後は顔色が悪かったそうです。耳鳴りもありました。保健室で休んでいるうちに自力では歩けるようになりました。この日、ワクチンを接種した後、初めて生理が始まりました。しかし、今まで経験したことのない、どす黒い色の血が出ました。

翌11日、大学病院の脳神経内科と耳鼻科を受診しましたが、子宮頸がん予防ワクチンの副作用かどうかは接種した医師に確認した方が良いと言われました。

5月13日に接種を受けたレディースクリニックを受診して、5月8日以降の出来事を話して尋ねましたが、接種から2ヶ月も経っているから子宮頸がんワクチンと因果関係はないと言われました。

その後も大学病院で検査を受けましたが、脳神経内科では異常はないと言われ、耳鼻科では突発性難聴と言われました。

5月27日12時10分ころ、授業中に失神して椅子から崩れ落ちてしまいました。意識はすぐに戻りましたが、耳鳴り、めまいがひどく立てませんでした。15時まで保健室で休み、母に車で迎えに来てもらいました。しかし、ひとりで歩けず、母に抱えられながら移動しました。かかりつけの内科クリニックを受診しましたが、大学病院にかかっているならそちらで診てもらってほしいと言われ、何の診断・治療もありませんでした。

6月21日朝、登校時に電車内でふらつき、発汗がひどく頭痛もありました。13時にもふらつきと頭痛がひどいので保健室で14時30分まで休みました。

この後は、しばらく失神を起こすことはありませんでした。

ただ、高校2年の夏に新書を読んでレポートを書くという課題がありました。高校1年生のときは私は論旨をつかんで要約することを得意としていて、課題を出す先生からも評価されていました。ところが、高校2年の課題に取り組む頃から文章を理解しづらいと感

じるようになり、誤字脱字が多くなり、自分で文章を書いても以前ほど論理的に構成することができなくなりました。先生からは、レポートに対し、以前は要約が得意だったのに、今ひとつ分からないと言われました。

5 インフルエンザ予防接種後の症状

高校3年生の平成24年11月5日、大学受験を控え、かかりつけの内科クリニックでインフルエンザ予防ワクチンを受けました。それまで体調は良好でした。

翌6日、早朝39.1度もの発熱があり、キーンという耳鳴りがありました。食欲がなく、接種部位が腫れていました。学校を休み内科クリニックを受診しました。一過性のワクチンのアレルギー反応だろうという診断でした。

しかし、午後には白眼に浮腫が見られ、両手に湿疹が出てきました。

翌7日には熱は下がりましたが、耳鳴りは続き、嘔吐まで現れたので、内科クリニックを再受診しました。手の湿疹はじんまんだらうと言われ、胃薬は処方されましたが、耳鳴りなどは耳鼻科に行きなさいと言われました。耳鼻科と眼科を受診し、突発性難聴やアレルギー性結膜炎と診断されました。11月14日に総合病院で下剤を処方されて以降、下痢の症状も現れるようになりました（症状が現れてすぐに下剤は中止）。

以上のような症状が続き、より高度の医療機関を含むいくつもの医療機関で、検査、治療を受けましたが、原因はよく分からず、症状は良くなりませんでした。症状がひどくないときはできる限り学校に行くようにしましたが、学校も休みがちになりました。

11月19日15時40分ころ、友人2人と話しながら階段を上っているとき、突然失神し、後方に転落し、腰と頭を打ってしまいました。17時ころ、母に総合病院に車で連れて行ってもらって検査を受けました。母よりこれまでの経緯を説明してもらったところ、医師からは、受験のストレスや思春期性のもので、母親が騒ぐのが良くないと怒られました。

その後も下痢の症状は毎日続き、発熱も見られました。11月24日、下痢がひどく、夜になるとトイレに行きっぱなしになり、22時30分ころめまいを起こして倒れてしまいました。

11月28日に生理が始まりましたが、赤黒くドロツとした感じでした。腹痛もあり、締め付けられるような痛みもありました。

翌29日、生理痛と下痢がひどく学校を休みました。生理は量が多くて、1時間くらいでナプキンから漏れるような状態で、赤黒くどろどろした粘着性の血が出ていました。このようなことは初めてでした。

12月1日午後、出血がほとんど終わったと思っていたら、22時ころになり、お腹がきりきりと痛くなりました。トイレに行くと、ピンクの膜と黒い断片、赤黒い液状のものがトイレに飛び散り、とても驚きました。発熱も38.2度ありました。

翌2日9時に子宮頸がん予防ワクチンの接種を受けたレディースクリニックを受診しエコー検査を受けましたが、医師からは別に珍しいことではないですと言われ、用意していた出血の写真も見ようとせず、診療を終えました。それまでの経緯を説明し、子宮頸がんワクチン接種後の体調不良を伝えましたが、副作用ではない、ダイエットでもしているんじゃないの、と不快そうに言われました。

しかし、12時30分ころ、激痛があり、真っ黒い多くの出血がありました。13時30分にもレディースクリニックを再診しましたが、痛み止めを処方されただけでした。ピル

も処方しようかと言われてましたが、断りました。

16時ころにも黒い出血があり、18時30分ころにも多量の真っ黒い出血があり、鮮血も混じっていました。強烈な腹痛もあり、トイレでお腹を抱えてしゃがみこむほどでした。

12月3日、異常な生理が続き、体調不良と腹痛のため、学校を休みましたが、18時ころ、心臓がドキドキしてきました。

12月6日で、黒い出血のある生理は終わりました。その後も、発熱、めまい、心臓がドキドキし脈拍が上がるといった症状がありました。

12月20日10時ころ、体育の授業中、心拍数が上がったような感じを覚え、教師から顔色が悪いから保健室で休むよう言われました。11時ころトイレに行こうと起き上がったところ、目の前が真っ暗になり失神しベッドから転落してしまいました。その日は早退しました。

翌21日は、終業式があり、車で学校への送迎をしてもらって行きました。しかし、夜22時20分ころ、自宅の中で自室へ向かう途中、玄関で失神して倒れてしまいました。母によると、ボタンと音がして駆けつけると倒れていて、呼びかけても反応がなかったそうです。そのため、私は大学病院に救急搬送され入院しました（平成25年1月11日まで）。

12月22日、心臓内科で心電図に気になる所見があると言われ、午後になり、主治医よりQT延長症候群の疑いがあるが、発症しなければ危くないものだという説明がありました。さらに検査をして、12月27日にQT延長症候群と診断されました。

平成25年1月17日から登校を再開しましたが、この日、音楽の授業で立って歌うときに気持ちが悪くなり保健室で休みました。脈拍は45まで下がっていました。帰宅後も寝込んでしまいました。

1月19日、20日、センター試験がありましたが、体調をうかがいながら、無理をせず受けられる科目のみを受験しました。結局、平成25年は大学受験を断念することになりました。

2月1日はこたつに座ってテレビを見ていたら、そのまま失神して倒れてしまい、大学病院に入院しました（2月22日まで入院）。

翌2日、12時30分ころ、面会中、話をしていたら突然痙攣発作が起きました。意識が戻ったときは10分くらいたっていて、その間記憶が飛んでいました。痙攣発作を起こしたのは、この日が初めてでした。

その後も、不整脈、失神、めまい、嘔吐、気持ちの悪さなどが続きました。

5月9日朝、予備校に登校する電車の中で失神し倒れました。駅で救護され大学病院に救急搬送されました。救急搬送された後、右手先が赤く震え、全身に力が入らず立つことができませんでした。脈拍は70台から180台まで乱高下していました。医師からは、てんかん、QT延長症候群、起立性低血圧か、いずれもはっきりしないとのことでしたが、不整脈などの対応のため、また入院することになりました（5月20日まで）。

5月11日、自分では普通のつもりだったのですが、母より、右足を巻き込むような引きずるような歩き方をしていることを、指摘されました。確かに、そのような歩き方になっていました。

6月18日、予備校からの帰り、自宅の最寄り駅の長い階段の途中で失神して、右手右足が震え出しました。駅から徒歩5分程度の自宅までタクシーで移動したものの、降りる

ときに全身脱力し、歩道に倒れてしまい動けなくなりました。救急車を呼び大学病院に救急搬送され、入院することになりました（6月29日まで）。入院後、不整脈で脈拍が150以上に上がり、全身の脱力で立つことが出来ませんでした。

翌19日、右手と右足に痺れが残っていました。

6月21日には、右手に痺れを断続的に感じ、右肩が極端に下がり、体が傾き、首が曲がったような状態になってきました。また、歩行にあたり、右足を巻き込むようにして歩くようになりました。入院中、右足に力が入らず、車椅子に乗って移動させてもらうことが多くなりました。

6月24日から25日にかけての夜、ペットボトルの水を飲もうとして右手から落としてこぼし、ナースコールをしました。看護師が来たとき、意識がもうろうとしていました。そのため、点滴してもらいました。

6月下旬より、漢字が単なる記号にしか見えず、分からなくなることがあることを感じるようになりました。

退院後も、右足にサポーターを巻くことで対応しようとしたのですが、力が入らず引きずるようにして歩行していました。右手も力が入らなくなりました。

6 現在まで見られている症状

その後も、意識がもうろうとしたり、失神、不整脈・頻脈、鼻血、生理不順、頭痛、特に後頭部の痛み、めまい、耳鳴り、右手右足の痙攣などが見られました。

さらに、最近になり、両目につき左半側空間無視、右同名1/4半盲との指摘も受けています。

現在も右足に力が入らず、歩行困難は改善していません。屋内で移動するくらいなら、歩くことは可能です。しかし、屋外を移動するときは、30分程度なら杖を使用して歩行することは可能ですが、それ以上になると車椅子を使用しなければ移動できません。右手の握力は8程度でペットボトルのふたを開けることができななど日常生活に不自由な状態であり、受験勉強でも、ノートをとることや試験の解答の記入にも支障が出ています。

現時点では、失神が起きたのは、平成25年11月が最後です。しかし、その時以来、生理も来ていません。また生理が来る前に何かひどい症状が起こるのではないかと不安です。平成26年5月に婦人科を受診したところ、多嚢胞性卵巣と診断されました。

7 多くの医療機関の対応

これまでの間、たくさんの医療機関を受診し検査してもらいましたが、はっきりした原因を明らかにしてもらうことはできませんでした。子宮頸がん予防ワクチンと関連があるのではないかとそれまでの経緯を説明しても、ほとんどの医療機関で関係ないと言われるばかりでした。それどころか、思春期性のものだとか、子宮頸がん予防ワクチンの被害者の会などに加わって被害者だと思っているから症状に悪影響を与えているのだと言われたり、母も、「あなたが娘さんに精神的に負担をかけている」というようなひどいことを言われたりしました。

8 子宮頸がん予防ワクチンの副作用の疑いでの診療

平成25年9月になり、子宮頸がん予防ワクチンとの関連性を否定しない態度で、医師に診察してもらうことができました。

平成26年3月には、地方の病院に入院し検査を受けることができました。この病院では、ステロイドパルス療法を受け、今後も入院治療を受けることを予定しています。

なお、平成25年8月、医薬品副作用被害救済制度に対する副作用被害救済申請を行いました。現在審査中です。

9 終わりに

子宮頸がん予防ワクチンを接種しなければ、私の症状は起こらなかったと考えています。今年3月に入院した病院には、私のほかに、私よりも若い中学生のときに子宮頸がん予防ワクチン接種を受けて、現在、杖をついたり頻繁に不随意運動を起こしたりしている女の子たちが入院していました。

私やそういう子たちがひどい被害に遭っているということを理解して真剣に考えてもらい、原因を突き止めてもらい、同じような被害が発生しないようにしていただかなければならないと考えています。できるなら元の健康な体に戻してもらいたいという思いも当然あります。

たとえ今の体の状態で過ごさなければいけないとしても、普段の生活は自立してやっていけるところまでの支援はしていただきたいと考えています。例えば杖一つ購入するにしても、何らかの疾患の診断がつき障害者認定を受けることができれば、医療機関で自分の体にあった杖を作ってもらえるところまで手配してもらえます。しかし、私の場合、そのようなことをしてもらえず、市販品を買うしかありません。そもそも医療用の杖がどういうところに売っているかも知らず、ネット通販で良さそうなものを購入しましたが、自分の腕の長さに合っているわけではなく、使っていると腕が痛くなり、長時間使うことができません。長時間使える杖を入手できるだけで、大学に入学した後も、自分自身で、かつ、車椅子とは違って比較的自由に移動することが可能になります。

そういう自立のためには、せめて他の疾患の場合に支援されるところまでは支援していただければ、後は自分のことは自分でできますし、そうしていきたいです。大学にも行って普通の大学生活を送り、法律家になる夢をかなえたいです。

子宮頸がん予防ワクチンの推奨再開をするかどうかだけでなく、今起きている被害をワクチンの副反応と認めて、現に発生している被害にどう対応するか、同じ被害を起こさないようにどうするかを真剣に検討して下さい。